



## Catalyst 3750-E および 3560-E スイッチ デバッグ コマンド

---

ここでは、Catalyst 3750-E および 3560-E スイッチに合わせて作成または変更された **debug** 特権 EXEC コマンドについて説明します。これらのコマンドは、インターネットワーキングの問題の診断および解決に役立ちます。使用する場合には、必ずシスコのテクニカル サポート担当者の指示に従ってください。



### 注意

デバッグ出力には、CPU プロセスで高いプライオリティが与えられるので、システムが使用不能になる可能性があります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカル サポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。**debug** コマンドは、ネットワーク トラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時間帯を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

# debug auto qos

Automatic Quality of Service (auto-QoS) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug auto qos**

**no debug auto qos**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードと引数はありません。

**デフォルト** auto-QoS デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** auto-QoS がイネーブルのときに自動的に生成される QoS (Quality of Service) の設定を表示するには、auto-QoS をイネーブルにする *前に* デバッグをイネーブルにします。デバッグをイネーブルするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを入力します。

**undebug auto qos** コマンドは、**no debug auto qos** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例 次の例では、auto-QoS がイネーブルの場合に自動的に生成される QoS 設定を表示する方法を示します。

```
Switch# debug auto qos
AutoQoS debugging is on
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# auto qos voip cisco-phone

21:29:41: mls qos map cos-dscp 0 8 16 26 32 46 48 56
21:29:41: mls qos
21:29:42: no mls qos srr-queue input cos-map
21:29:42: no mls qos srr-queue output cos-map
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 3 0
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 2 1
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 1 2
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 2 4 6 7
21:29:43: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 3 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 1 threshold 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 2 threshold 3 3 6 7
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 3 threshold 3 2 4
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 2 1
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 3 0
21:29:44: no mls qos srr-queue input dscp-map
21:29:44: no mls qos srr-queue output dscp-map
21:29:44: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 3 2
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 1 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 33 34 35 36 37 38 39 48
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 49 50 51 52 53 54 55 56
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 57 58 59 60 61 62 63
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 1 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 48 49 50 51 52 53 54 55
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 56 57 58 59 60 61 62 63
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 32 33 34 35 36 37 38 39
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 1 8
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 1
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 2
21:29:50: mls qos srr-queue input bandwidth 90 10
21:29:50: no mls qos srr-queue input buffers
21:29:50: mls qos queue-set output 1 buffers 10 10 26 54
21:29:50: interface GigabitEthernet2/0/1
21:29:50: mls qos trust device cisco-phone
21:29:50: mls qos trust cos
21:29:50: no queue-set 1
21:29:50: srr-queue bandwidth shape 10 0 0 0
21:29:50: srr-queue bandwidth share 10 10 60 20
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">auto qos voip</a>	QoS ドメイン内で Voice over IP (VoIP) の auto-QoS を設定します。
<a href="#">show auto qos</a>	auto-QoS 機能によって生成された初期設定を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグタイプに関する情報を表示します。

# debug backup

Flex Link バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug backup** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug backup {all | errors | events | vlan-load-balancing}**

**no debug backup {all | errors | events | vlan-load-balancing}**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	バックアップ インターフェイスのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	バックアップ インターフェイスのエラーまたは例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	バックアップ インターフェイスのイベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan-load-balancing</b>	バックアップ インターフェイスの VLAN ロード バランシングを表示します。

## コマンドのデフォルト設定

バックアップ インターフェイス デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug backup** コマンドは、**no debug backup** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug cluster

クラスタ固有のイベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug cluster** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat | neighbors |
platform | snmp | vqpxy}
```

```
no debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat | neighbors
| platform | snmp | vqpxy}
```

## シンタックスの説明

<b>discovery</b>	クラスタ検出デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	クラスタ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>extended</b>	拡張検出デバッグ メッセージを表示します。
<b>hsrp</b>	Hot Standby Router Protocol (HSRP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>http</b>	HTTP デバッグ メッセージを表示します。
<b>ip [packet]</b>	IP またはトランスポート パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>members</b>	クラスタ メンバー デバッグ メッセージを表示します。
<b>nat</b>	Network Address Translation (NAT) デバッグ メッセージを表示します。
<b>neighbors</b>	クラスタ ネイバ デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	プラットフォーム固有のクラスタ デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
<b>vqpxy</b>	VLAN Query Protocol (VQP) プロキシデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドが利用できるのは、クラスタ コマンド スイッチ スタックまたはクラスタ コマンド スイッチに限られます。

**undebug cluster** コマンドは、**no debug cluster** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<code>show cluster</code>	スイッチが属するクラスタのステータスおよびサマリーを表示します。
<code>show cluster candidates</code>	コマンド スイッチに対して入力した場合、候補スイッチのリストを表示します。
<code>show cluster members</code>	コマンド スイッチに対して実行した場合、クラスタ メンバーに関する情報を表示します。

# debug dot1x

IEEE 802.1x 認証機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug dot1x** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | errors | events | feature | packets | registry | state-machine}
```

```
no debug dot1x {all | errors | events | feature | packets | registry | state-machine}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべての IEEE 802.1x 認証デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	IEEE 802.1x エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	IEEE 802.1x イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>feature</b>	IEEE 802.1x 機能のデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	IEEE 802.1x パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>registry</b>	IEEE 802.1x レジストリ呼び出しのデバッグ メッセージを表示します。
<b>state-machine</b>	ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**redundancy** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されますが、サポートされていません。

## コマンドのデフォルト設定

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dot1x** コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show dot1x</b>	スイッチまたは指定されたポートの IEEE 802.1x 統計情報、管理ステータス、および動作ステータスを表示します。

# debug dtp

Dynamic Trunking Protocol (DTP) のアクティビティをデバッグするには、**debug dtp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dtp {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}
```

```
no debug dtp {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}
```

## シンタックスの説明

<b>aggregation</b>	DTP ユーザメッセージアグリゲーションデバッグメッセージを表示します。
<b>all</b>	DTP デバッグメッセージをすべて表示します。
<b>decision</b>	DTP 決定テーブルデバッグメッセージを表示します。
<b>events</b>	DTP イベントデバッグメッセージを表示します。
<b>oserrs</b>	DTP オペレーティングシステム関連エラーデバッグメッセージを表示します。
<b>packets</b>	DTP パケット処理デバッグメッセージを表示します。
<b>queue</b>	DTP パケットキューイングデバッグメッセージを表示します。
<b>states</b>	DTP ステート移行デバッグメッセージを表示します。
<b>timers</b>	DTP タイマーイベントデバッグメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dtp** コマンドは、**no debug dtp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグタイプに関する情報を表示します。
<b>show dtp</b>	スイッチまたは指定されたインターフェイスの DTP 情報を表示します。



# debug eap

Extensible Authentication Protocol (EAP) のアクティビティをデバッグするには、**debug eap** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | authenticator | errors | events | md5 | packets | peer | sm}
```

```
no debug dot1x {all | authenticator | errors | events | md5 | packets | peer | sm}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	EAP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>authenticator</b>	オーセンティケータ デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	EAP エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	EAP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>md5</b>	EAP-MD5 デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	EAP パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>peer</b>	EAP ピア デバッグ メッセージを表示します。
<b>sm</b>	EAP ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

## コマンドのデフォルト設定

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dot1x** コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show eap</b>	スイッチまたは特定のポートの EAP のレジストレーション情報およびセッション情報を表示します。

# debug etherchannel

EtherChannel/Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) シムのデバッグをイネーブルにするには、**debug etherchannel** 特権 EXEC コマンドを使用します。このシムは、PAgP ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug etherchannel** [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

**no debug etherchannel** [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>detail</b>	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>error</b>	(任意) EtherChannel エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) 主な EtherChannel イベント メッセージをデバッグします。
<b>idb</b>	(任意) PAgP インターフェイス記述子ブロック デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**linecard** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring には表示されますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebug etherchannel** コマンドは、**no debug etherchannel** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show etherchannel</b>	チャネルの EtherChannel 情報を表示します。

# debug fastethernet

イーサネット管理ポートのデバッグをイネーブルにするには、**debug fastethernet** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug fastethernet {af | events | packets}
```

```
no debug fastethernet {af | events | packets}
```

シンタックスの説明	
<b>af</b>	イーサネット管理ポート ソフトウェア アドレス フィルタ デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	イーサネット管理ポート イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	イーサネット管理ポート パケット デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebg fastethernet {af | events | packets}** コマンドは、**no debug fastethernet {af | events | packets}** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show controllers ethernet-controller fastethernet</b>	イーサネット管理ポートについての情報を表示します。

# debug ilpower

電源コントローラおよび Power over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、**debug ilpower** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

```
no debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

## シンタックスの説明

<b>cdp</b>	PoE Cisco Discovery Protocol (CDP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>controller</b>	PoE コントローラ デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	PoE イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ha</b>	PoE ハイ アベイラビリティ メッセージを表示します。
<b>port</b>	PoE ポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>powerman</b>	PoE 電力管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	PoE レジストリ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、PoE 対応スイッチのみでサポートされています。

Catalyst 3560-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、デバッグはスイッチでのみイネーブルになります。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show controllers power inline</a>	指定した PoE コントローラのレジスタの値を表示します。
<a href="#">show power inline</a>	指定した PoE ポートまたはすべての PoE ポートの電源ステータスを表示します。

## debug ip dhcp snooping

DHCP スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip dhcp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ip dhcp snooping {mac-address | agent | event | packet}
```

```
no debug ip dhcp snooping {mac-address | agent | event | packet}
```

このコマンドは、スイッチが IP サービス フィーチャセットを実行している場合のみ使用可能です。

シンタックスの説明	
<i>mac-address</i>	指定された MAC (メディア アクセス制御) アドレスを持つ DHCP パケットのデバッグ メッセージを表示します。
<b>agent</b>	DHCP スヌーピング エージェントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	DHCP スヌーピング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	DHCP スヌーピングのデバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug ip dhcp snooping** コマンドは、**no debug ip dhcp snooping** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip verify source packet

IP 送信元ガードのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip verify source packet** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip verify source packet**

**no debug ip verify source packet**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug ip verify source packet** コマンドは、**no debug ip verify source packet** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug interface

インターフェイス関連のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug interface** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number |
                vlan vlan-id}
```

```
no debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number |
                   vlan vlan-id}
```

## シンタックスの説明

<i>interface-id</i>	タイプ スイッチ番号 / モジュール番号 / ポート (例: <b>gigabitethernet 1/0/2</b> ) によって識別される指定された物理ポートのデバッグ メッセージを表示します。
<b>null interface-number</b>	スル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>interface-number</i> は常に <b>0</b> です。
<b>port-channel</b> <i>port-channel-number</i>	指定された EtherChannel ポートチャネル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>port-channel-number</i> の範囲は 1 ~ 48 です。
<b>vlan vlan-id</b>	指定された VLAN (仮想 LAN) のデバッグ メッセージを表示します。指定できる <i>vlan-id</i> の範囲は 1 ~ 4094 です。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebug interface** コマンドは、**no debug interface** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show etherchannel</b>	チャンネルの EtherChannel 情報を表示します。

# debug ip igmp filter

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) フィルタ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp filter** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp filter**

**no debug ip igmp filter**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug ip igmp filter** コマンドは、**no debug ip igmp filter** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



## debug ip igmp max-groups

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) 最大グループ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp max-groups** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp max-groups**

**no debug ip igmp max-groups**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug ip igmp max-groups** コマンドは、**no debug ip igmp max-groups** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp snooping

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug igmp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp snooping** [group | management | querier | router | timer]

**no debug ip igmp snooping** [group | management | querier | router | timer]

シンタックスの説明	
<b>group</b>	(任意) IGMP スヌーピング グループ アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>management</b>	(任意) IGMP スヌーピング管理アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>querier</b>	(任意) IGMP スヌーピング クェリア デバッグ メッセージを表示します。
<b>router</b>	(任意) IGMP スヌーピング ルータ アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>timer</b>	(任意) IGMP スヌーピング タイマー イベント デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug ip igmp snooping** コマンドは、**no debug ip igmp snooping** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<a href="#">debug platform ip igmp snooping</a>	プラットフォーム依存型 IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
	<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug lacp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug lacp [all | event | fsm | misc | packet]
```

```
no debug lacp [all | event | fsm | misc | packet]
```

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) LACP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>event</b>	(任意) LACP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>fsm</b>	(任意) LACP 有限状態マシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>misc</b>	(任意) その他の LACP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) LACP パケット デバッグ メッセージをすべて表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug lacp** コマンドは、**no debug lacp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show lacp</b>	LACP チャネル グループ情報を表示します。

# debug mac-notification

MAC (メディア アクセス制御) 通知イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug mac-notification** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug mac-notification**

**no debug mac-notification**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug mac-notification** コマンドは、**no debug mac-notification** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show mac address-table notification</b>	すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対する MAC アドレス通知の情報を表示します。

# debug matm

プラットフォーム独立型 MAC（メディア アクセス制御）アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug matm**

**no debug matm**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug matm** コマンドは、**no debug matm** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<a href="#">debug platform matm</a>	プラットフォーム依存型 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
	<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug matm move update

MAC（メディア アクセス制御）アドレス テーブル移行更新メッセージ処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm move update** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**debug matm move update**

**no debug matm move update**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug matm move update** コマンドは、**no debug matm move update** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>mac address-table move update</b> {receive   transmit}	スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新機能を設定します。
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show mac address-table move update</b>	スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新情報を表示します。

# debug monitor

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug monitor** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

```
no debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	SPAN デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	SPAN エラー デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>idb-update</b>	SPAN Interface Description Block (IDB; インターフェイス記述子ブロック) 更新トレース デバッグ メッセージを表示します。
<b>info</b>	SPAN 情報トレーシング デバッグ メッセージを表示します。
<b>list</b>	SPAN ポートおよび VLAN (仮想 LAN) リスト トレーシング デバッグ メッセージを表示します。
<b>notifications</b>	SPAN 通知デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	SPAN プラットフォーム トレーシング デバッグ メッセージを表示します。
<b>requests</b>	SPAN 要求デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	SPAN および SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) トレーシング デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug monitor** コマンドは、**no debug monitor** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show monitor</b>	スイッチ上の SPAN および Remote SPAN (RSPAN; リモート SPAN) セッションに関する情報をすべて表示します。

# debug mvrdbg

Multicast VLAN Registration (MVR) のデバッグをイネーブルにするには、**debug mvrdbg** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

```
no debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	MVR アクティビティ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>events</b>	MVR イベント処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>igmpsn</b>	MVR Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピング アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>management</b>	MVR 管理アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>ports</b>	MVR ポート デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug mvrdbg** コマンドは、**no debug mvrdbg** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show mvr</b>	現在の MVR 設定を表示します。



# debug nvram

NVRAM（不揮発性 RAM）アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug nvram** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug nvram**

**no debug nvram**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug nvram** コマンドは、**no debug nvram** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pagp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pagp [all | event | fsm | misc | packet]
```

```
no debug pagp [all | event | fsm | misc | packet]
```

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) PAgP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>event</b>	(任意) PAgP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>fsm</b>	(任意) PAgP 有限状態マシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>misc</b>	(任意) その他の PAgP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) PAgP パケット デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug pagp** コマンドは **no debug pagp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show pagp</b>	PAgP チャネル グループ情報を表示します。

# debug platform acl

Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform acl** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform acl {all | exit | label | main | racl | stack | vacl | vlmmap | warn}
```

```
no debug platform acl {all | exit | label | main | racl | stack | vacl | vlmmap | warn}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	ACL マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>exit</b>	ACL 終了関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>label</b>	ACL ラベル関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>main</b>	主な、または重要な ACL デバッグ メッセージを表示します。
<b>racl</b>	ルータ ACL 関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>stack</b>	ACL スタック関連デバッグ メッセージを表示します。  このキーワードは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。
<b>vacl</b>	VLAN (仮想 LAN) ACL 関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlmap</b>	ACL VLAN マップ関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>warn</b>	ACL 警告関連デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**stack** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、Catalyst 3560-E **スイッチ** ではサポートされていません。

## コマンドのデフォルト設定

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform acl** コマンドは、**no debug platform acl** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform backup interface

Flex Link プラットフォーム バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform backup interface** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform backup interface**

**no debug platform backup interface**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** プラットフォーム バックアップ インターフェイス デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform backup interface** コマンドは、**no platform debug backup interface** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform cli-redirection main

主要（重要）な CLI（コマンドライン インターフェイス）リダイレクション イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cli-redirection main** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform cli-redirection main**

**no debug platform cli-redirection main**



(注)

このコマンドは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。

## シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform cli-redirection main** コマンドは、**no debug platform cli-redirection main** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform configuration

スタック全体のコンフィギュレーション ファイル アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform configuration** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform configuration {all | reception | transmission}
```

```
no debug platform configuration {all | reception | transmission}
```



(注)

このコマンドは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。

## シンタックスの説明

<b>all</b>	スタック全体のすべてのコンフィギュレーション ファイルの送受信イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>reception</b>	他のスタック メンバーからのコンフィギュレーション ファイル受信のデバッグ メッセージを表示します。
<b>transmission</b>	他のスタック メンバーへのコンフィギュレーション ファイル送信のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform configuration** コマンドは、**no debug platform configuration** コマンドと同じです。Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

## debug platform cpu-queues

プラットフォーム CPU 受信キューのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cpu-queues** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q |
  igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q | routing-protocol-q |
  rpffail-q | software-fwd-q | stp-q}
```

```
no debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q |
  igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q | routing-protocol-q |
  rpffail-q | software-fwd-q | stp-q}
```

シンタックスの説明	
<b>broadcast-q</b>	ブロードキャスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>cbt-to-spt-q</b>	Core-Based Tree to Shortest-Path Tree (cbt-to-spt) キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>cpuhub-q</b>	CPU ハートビート キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>host-q</b>	ホスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>icmp-q</b>	Internet Control Message Protocol (ICMP; インターネット制御メッセージプロトコル) キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>igmp-snooping-q</b>	Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) スヌーピング キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>layer2-protocol-q</b>	レイヤ 2 プロトコル キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>logging-q</b>	ロギング キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>remote-console-q</b>	リモート コンソール キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>routing-protocol-q</b>	ルーティング プロトコル キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>rpffail-q</b>	Reverse Path Forwarding (RPF) 障害キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>software-fwd-q</b>	ソフトウェア転送キューによって受信されたパケットをデバッグします。
<b>stp-q</b>	Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリープロトコル) キューによって受信されたパケットをデバッグします。

**コマンドのデフォルト設定** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebug platform cpu-queues** コマンドは、**no debug platform cpu-queues** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform device-manager

プラットフォームに依存するデバイス マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform device-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform device-manager {all | device-info | poll | port-download | trace}
```

```
no debug platform device-manager {all | device-info | poll | port-download | trace}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	プラットフォーム デバイス マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>device-info</b>	プラットフォーム デバイス マネージャ デバイス構造デバッグ メッセージを表示します。
<b>poll</b>	プラットフォーム デバイス マネージャ 1 セカンド ポール デバッグ メッセージを表示します。
<b>port-download</b>	デバイス マネージャ Remote Procedure Call (RPC) 使用状況デバッグ メッセージを表示します。
<b>trace</b>	プラットフォーム デバイス マネージャ機能の入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform device-manager** コマンドは、**no debug platform device-manager** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform dot1x

IEEE 802.1x イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform dot1x** 特権 EXEC コマンドを使用します。Catalyst 3750-E スイッチでは、このコマンドによりスタック関連 IEEE 802.1x イベントのデバッグがイネーブルになります。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform dot1x {initialization | interface-configuration | rpc}
```

```
no debug platform dot1x {initialization | interface-configuration | rpc}
```

## シンタックスの説明

<b>initialization</b>	IEEE 802.1x 認証初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
<b>interface-configuration</b>	IEEE 802.1x インターフェイス コンフィギュレーション関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	IEEE 802.1x Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform dot1x** コマンドは、**no debug platform dot1x** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform etherchannel

プラットフォーム依存型 EtherChannel イベントをデバッグするには、**debug platform etherchannel** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

```
no debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

## シンタックスの説明

<b>init</b>	EtherChannel モジュール初期化デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-up</b>	EtherChannel リンクアップおよびリンクダウン関連のデバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	EtherChannel Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>warnings</b>	EtherChannel 警告デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform etherchannel** コマンドは、**no debug platform etherchannel** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform fallback-bridging

プラットフォームに依存するフォールバック ブリッジング マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform fallback-bridging** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform fallback-bridging** [**error** | **retry** | **rpc** {**events** | **messages**}]

**no debug platform fallback-bridging** [**error** | **retry** | **rpc** {**events** | **messages**}]

## シンタックスの説明

<b>error</b>	(任意) フォールバック ブリッジング マネージャ エラー条件メッセージを表示します。
<b>retry</b>	(任意) フォールバック ブリッジング マネージャ リトライ メッセージを表示します。
<b>rpc</b> { <b>events</b>   <b>messages</b> }	(任意) フォールバック ブリッジング デバッグ情報を表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>events</b> — Remote Procedure Call (RPC) イベントを表示します。</li> <li>• <b>messages</b> — RPC メッセージを表示します。</li> </ul>

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合、すべてのフォールバック ブリッジング マネージャ デバッグ メッセージが表示されます。

**undebug platform fallback-bridging** コマンドは、**no debug platform fallback-bridging** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform forw-tcam

転送ハードウェア メモリ マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform forw-tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform forw-tcam** [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]

**no debug platform forw-tcam** [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]

## シンタックスの説明

<b>adjustment</b>	(任意) ハードウェア マネージャ調整デバッグ メッセージを表示します。
<b>allocate</b>	(任意) ハードウェア マネージャ割り当てデバッグ メッセージを表示します。
<b>audit</b>	(任意) ハードウェア マネージャ監査メッセージを表示します。
<b>error</b>	(任意) ハードウェア マネージャ エラー メッセージを表示します。
<b>move</b>	(任意) ハードウェア マネージャ移行メッセージを表示します。
<b>read</b>	(任意) ハードウェア マネージャ読み取りメッセージを表示します。
<b>write</b>	(任意) ハードウェア マネージャ書き込みメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードが指定されない場合、転送ハードウェア マネージャ デバッグ メッセージがすべて表示されます。

**undebug platform forw-tcam** コマンドは、**no debug platform forw-tcam** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform frontend-controller

フロントエンドコントローラ アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform frontend-controller** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform frontend-controller** {all | image | led | manager | poe | register | thermal}

**no debug platform frontend-controller** {all | image | led | manager | poe | register | thermal}

## シンタックスの説明

<b>all</b>	フロントエンドコントローラのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>image</b>	Image Manager デバッグ メッセージを表示します。
<b>led</b>	LED デバッグ メッセージを表示します。
<b>manager</b>	フロントエンドコントローラ マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>poe</b>	Power over Ethernet (PoE) デバッグ メッセージを表示します。
<b>register</b>	Register Access デバッグ メッセージを表示します。
<b>thermal</b>	温度デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform frontend-controller** コマンドは、**no debug platform frontend-controller** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show platform frontend-controller</a>	フロントエンドコントローラ マネージャとその従属アプリケーションのカウンタおよびステータス情報を表示します。また、フロントエンドコントローラのハードウェアおよびソフトウェア情報を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip arp inspection

ダイナミック Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) 検査イベントをデバッグするには、**debug platform ip arp inspection** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip arp inspection {all | error | event | packet | rpc}
```

```
no debug platform ip arp inspection {all | error | event | packet | rpc}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべてのダイナミック ARP 検査デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	ダイナミック ARP 検査エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	ダイナミック ARP 検査イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	ダイナミック ARP 検査パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	ダイナミック ARP 検査 Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ip arp inspection** コマンドは、**no debug platform ip arp inspection** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show inventory</a>	ダイナミック ARP 検査の設定および動作ステータスを表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip dhcp

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) イベントをデバッグするには、**debug platform ip dhcp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]**

**no debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) DHCP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>error</b>	(任意) DHCP エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) DHCP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) DHCP パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	(任意) DHCP Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ip dhcp** コマンドは、**no debug platform ip dhcp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show ip dhcp snooping</a>	DHCP スヌーピング設定を表示します。
<a href="#">show ip dhcp snooping binding</a>	DHCP スヌーピング バインディング情報を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform ip igmp snooping

プラットフォーム依存型 Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理 プロトコル) スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip igmp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

```
debug platform ip igmp snooping pak {ip-address | error | ipopt | leave | query | report | rx | svi | tx}
```

```
debug platform ip igmp snooping rpc [cfg | l3mm | misc | vlan]
```

```
no debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	IGMP スヌーピング デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>di</b>	IGMP スヌーピング宛先インデックス (di) 調整 Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	IGMP スヌーピング エラー メッセージを表示します。
<b>event</b>	IGMP スヌーピング イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>group</b>	IGMP スヌーピング グループ デバッグ メッセージを表示します。
<b>mgmt</b>	IGMP スヌーピング管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>pak</b> { <i>ip-address</i>   <b>error</b>   <b>ipopt</b>   <b>leave</b>   <b>query</b>   <b>report</b>   <b>rx</b>   <b>svi</b>   <b>tx</b> }	<p>IGMP スヌーピング パケット イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>ip-address</i> — IGMP グループの IP アドレス</li> <li>• <b>error</b> — IGMP スヌーピング パケット エラー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipopt</b> — IGMP スヌーピング IP ブリッジング オプション デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>leave</b> — IGMP スヌーピング脱退デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>query</b> — IGMP スヌーピング クエリー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>report</b> — IGMP スヌーピング レポート デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>rx</b> — IGMP スヌーピング受信パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>svi</b> — IGMP スヌーピング Switched Virtual Interface (SVI) パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>tx</b> — IGMP スヌーピング送信パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>retry</b>	IGMP スヌーピング再試行デバッグ メッセージを表示します。

## ■ debug platform ip igmp snooping

<b>rpc</b> [cfg   l3mm   misc   vlan]	IGMP スヌーピング RPC イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>cfg</b> — (任意) IGMP スヌーピング RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>l3mm</b> — (任意) IGMP スヌーピング レイヤ 3 マルチキャスト ルータ グループ RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>misc</b> — (任意) IGMP スヌーピングのその他の RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>vlan</b> — (任意) IGMP スヌーピング VLAN (仮想 LAN) アサート RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>warn</b>	IGMP スヌーピング警告メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** `undebug platform ip igmp snooping` コマンドは、`no debug platform ip igmp snooping` コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>debug ip igmp snooping</code>	プラットフォーム独立型 IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
	<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。


# debug platform ip multicast

IP マルチキャスト ルーティングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip multicast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip multicast {all | mdb | mdfs-rp-retry | midb | mroute-rp | resources | retry |
rpf-throttle | snoop-events | software-forward | swidb-events | vlan-locks}
```

```
no debug platform ip multicast {all | mdb | mdfs-rp-retry | midb | mroute-rp | resources | retry |
rpf-throttle | snoop-events | software-forward | swidb-events | vlan-locks}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべてのプラットフォームの IP マルチキャスト イベント デバッグ メッセージを表示します。
	 <p><b>(注)</b> このコマンドを使用すると、スイッチのパフォーマンスが悪化する可能性があります。</p>
<b>mdb</b>	Multicast Distributed Fast Switching (MDFS) の Multicast Descriptor Block (MDB) イベントの IP マルチキャスト デバッグ メッセージを表示します。
<b>mdfs-rp-retry</b>	IP マルチキャスト MDFS の Rendezvous Point (RP; ランデブー ポイント) のリトライ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>midb</b>	IP マルチキャスト MDFS の Multicast Interface Descriptor Block (MIDB) のデバッグ メッセージを表示します。
<b>mroute-rp</b>	IP マルチキャスト RP イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>resources</b>	IP マルチキャスト ハードウェア リソースのデバッグ メッセージを表示します。
<b>retry</b>	IP マルチキャストリトライ処理イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>rpf-throttle</b>	IP マルチキャストの Reverse Path Forwarding (RPF) スロットル イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>snoop-events</b>	IP マルチキャスト IGMP スヌーピング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>software-forward</b>	IP マルチキャスト ソフトウェア転送イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>swidb-events</b>	IP マルチキャスト MDFS の Software Interface Descriptor Block (SWIDB) またはグローバル イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan-locks</b>	IP マルチキャスト VLAN (仮想 LAN) ロックおよびロック解除イベントのデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## ■ debug platform ip multicast

**使用上のガイドライン**

**undebug platform ip multicast** コマンドは、**no debug platform ip multicast** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。


# debug platform ip unicast

プラットフォームに依存する IP ユニキャスト ルーティングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip unicast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip unicast {adjacency | all | arp | dhcp | errors | events | interface | mpath | registries
| retry | route | rpc | rpf | standby | statistics}
```

```
no debug platform ip unicast {adjacency | all | arp | dhcp | errors | events | interface | mpath |
registries | retry | route | rpc | rpf | standby | statistics}
```

## シンタックスの説明

<b>adjacency</b>	IP ユニキャスト ルーティング隣接プログラミング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	すべてのプラットフォームの IP ユニキャスト ルーティングのデバッグ メッセージを表示します。
	 <p><b>(注)</b> このコマンドを使用すると、スイッチのパフォーマンスが悪化する可能性があります。</p>
<b>arp</b>	IP ユニキャスト ルーティングの Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) および ARP スロットリングのデバッグ メッセージを表示します。
<b>dhcp</b>	IP ユニキャスト ルーティング DHCP ダイナミック アドレス関連イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	すべての IP ユニキャスト ルーティング エラーのデバッグ メッセージ (リソース割り当てエラーを含む) を表示します。
<b>events</b>	すべての IP ユニキャスト ルーティング イベントのデバッグ メッセージ (レジストリおよび各種イベントを含む) を表示します。
<b>interface</b>	IP ユニキャスト ルーティング インターフェイス イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>mpath</b>	IP ユニキャスト ルーティング マルチパス隣接プログラミング イベントのデバッグ メッセージ (等価または不等価コスト ルーティングの実行時に発生) を表示します。
<b>registries</b>	IP ユニキャスト ルーティング Forwarding Information Base (FIB; 転送情報ベース)、隣接の追加、更新、および削除レジストリ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>retry</b>	ハードウェア メモリ割り当てエラーの発生した IP ユニキャスト ルーティング プログラム FIB のデバッグ メッセージを表示します。
<b>route</b>	IP ユニキャスト ルーティング FIB ハードウェア プログラミング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	IP ユニキャスト ルーティング レイヤ 3 ユニキャスト Remote Procedure Call (RPC) 相互作用のデバッグ メッセージを表示します。
<b>rpf</b>	IP ユニキャスト ルーティング レイヤ 3 ユニキャスト Reverse Path Forwarding (ユニキャスト RPF) イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>standby</b>	Hot Standby Routing Protocol (HSRP) および Gateway Load Balancing Protocol (GLBP) の問題が発生したときのトラブルシューティングに役立つ、IP ユニキャスト ルーティング スタンバイ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>statistics</b>	IP ユニキャスト ルーティング統計情報収集関連イベントのデバッグ メッセージを表示します。

## ■ debug platform ip unicast

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** `undebug platform ip unicast` コマンドは、`no debug platform ip unicast` コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip wccp

Web Cache Communication Protocol (WCCP) のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip wccp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip wccp {acl | event | odm | trace}
```

```
no debug platform ip wccp {acl | event | odm | trace}
```

このコマンドは、スイッチが IP サービス フィーチャ セットを実行している場合のみ使用可能です。

## シンタックスの説明

<b>acl</b>	WCCP Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を表示します。
<b>event</b>	WCCP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>odm</b>	WCCP OD マージ VMR を表示します。
<b>trace</b>	WCCP 実行をトレースします。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(37)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform ip wccp** コマンドは、**no debug platform ip wccp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ipc

プラットフォーム依存 Interprocess Communication (IPC; プロセス間通信) プロトコルのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ipc** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ipc {all | init | receive | send | trace}
```

```
no debug platform {all | init | receive | send | trace}
```



(注)

このコマンドは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。

## シンタックスの説明

**all** すべてのプラットフォーム IPC デバッグ メッセージを表示します。



(注)

このコマンドを使用すると、スイッチのパフォーマンスが悪化する可能性があります。

**init** IPC 初期化関連デバッグ メッセージを表示します。

**receive** IPC パケットがスイッチに受信されるたびに IPC 追跡を表示します。

**send** IPC パケットをスイッチが送信するたびに IPC 追跡を表示します。

**trace** IPC 機能の実行に従いコードパスを追跡する IPC 追跡デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ipc** コマンドは、**no debug platform ipc** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform led

Light-Emitting Diode (LED) 動作のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform led** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform led {generic | signal | stack}
```

```
no debug platform led {generic | signal | stack}
```

シンタックスの説明	generic	LED の一般的動作のデバッグ メッセージを表示します。
	signal	LED 信号ビット マップ デバッグ メッセージを表示します。
	stack	LED スタック アクション デバッグ メッセージを表示します。
	このキーワードは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。	

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebbug platform led** コマンドは、**no debug platform led** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform matm

プラットフォーム依存型 MAC（メディア アクセス制御）アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform matm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address | warnings}
```

```
no debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address | warnings}
```

## シンタックスの説明

<b>aging</b>	MAC アドレス エージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	プラットフォーム MAC アドレス管理イベント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>ec-aging</b>	EtherChannel アドレス エージング関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	MAC アドレス管理エラー メッセージを表示します。
<b>learning</b>	MAC アドレス管理アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	MAC アドレス管理 Remote Procedure Call (RPC) 関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>secure-address</b>	MAC アドレス管理セキュアアドレス ラーニングデバッグ メッセージを表示します。
<b>warning</b>	MAC アドレス管理警告メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform matm** コマンドは、**no debug platform matm** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド v

コマンド	説明
<a href="#">debug matm</a>	プラットフォーム独立型 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform messaging application

アプリケーション メッセージング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform messaging application** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform messaging application {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}
```

```
no debug platform messaging application {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	アプリケーションメッセージング デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>badpak</b>	不良パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>cleanup</b>	クリーンアップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>memerr</b>	メモリ エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>messages</b>	アプリケーションメッセージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>stackchg</b>	スタック変更デバッグ メッセージを表示します。
	このキーワードは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。
<b>usererr</b>	ユーザ エラー デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform messaging application** コマンドは、**no debug platform messaging application** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform phy

PHY ドライバ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform phy** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | fcd {configure | ipc | iter | trace} |
  flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller | speed | write | xenpak}
no debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | fcd {configure | ipc | iter | trace} |
  flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller | speed | write | xenpak}
```

## シンタックスの説明

<b>automdix</b>	PHY Automatic Medium-Dependent Interface Crossover (Auto-MDIX) デバッグ メッセージを表示します。
<b>cablediag</b>	PHY ケーブル診断デバッグ メッセージを表示します。
<b>dual-purpose</b>	PHY 兼用イベントデバッグ メッセージを表示します。
<b>fcd {configure   ipc   iter   trace}</b>	PHY FLCD デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>configure</b> — PHY 設定デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipc</b> — Interprocess Communication (IPC; プロセス間通信) デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>iter</b> — iter デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>trace</b> — 追跡デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>flowcontrol</b>	PHY フロー制御デバッグ メッセージを表示します。
<b>forced</b>	PHY 強制モードデバッグ メッセージを表示します。
<b>init-seq</b>	PHY 初期化シーケンスデバッグ メッセージを表示します。
<b>link-status</b>	PHY リンク ステータス デバッグ メッセージを表示します。
<b>read</b>	PHY 読み込みデバッグ メッセージを表示します。
<b>sfp</b>	PHY Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュール デバッグ メッセージを表示します。
<b>show-controller</b>	PHY show-controller デバッグ メッセージを表示します。
<b>speed</b>	PHY 速度変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	PHY 書き込みデバッグ メッセージを表示します。
<b>xenpak</b>	PHY XENPAK デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

`undebbug platform phy` コマンドは、`no debug platform phy` コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

## debug platform pm

プラットフォーム依存型ポート マネージャ ソフトウェア モジュールのデバッグをイネーブルにするには、`debug platform pm` 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events | idb-events |
if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span | pm-vectors [detail] | rpc
[general | oper-info | state | vectors | vp-events] | soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}

no debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events | idb-events |
if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span | pm-vectors [detail] | rpc
[general | oper-info | state | vectors | vp-events] | soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
```

## シンタックスの説明

<code>all</code>	ポート マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<code>counters</code>	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージのカウンタを表示します。
<code>errdisable</code>	<code>errdisable</code> 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>etherchnl</code>	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>exceptions</code>	システム例外デバッグ メッセージを表示します。
<code>hpm-events</code>	プラットフォーム ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>idb-events</code>	Interface Descriptor Block (IDB; インターフェイス記述子ブロック) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>if-numbers</code>	インターフェイス番号変換イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>ios-events</code>	Cisco IOS イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>link-status</code>	インターフェイス リンク検出イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>platform</code>	ポート マネージャ機能イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>pm-events</code>	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<code>pm-span</code>	ポート マネージャ Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

<b>pm-vectors [detail]</b>	ポートマネージャベクトル関連イベントデバッグメッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>detail</b> — ベクトル機能の詳細を表示します。</li> </ul>
<b>rpc [general   oper-info   state   vectors   vp-events]</b>	RPC 関連イベントデバッグメッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>general</b> — (任意) RPC 一般的イベントを表示します。</li> <li>• <b>oper-info</b> — (任意) 動作および情報関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li>• <b>state</b> — (任意) 管理および動作関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li>• <b>vectors</b> — (任意) ベクトル関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li>• <b>vp-events</b> — (任意) 仮想ポート関連イベント RP メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>soutput-vectors</b>	IDB 出力ベクトルイベントデバッグメッセージを表示します。
<b>stack-manager</b>	スタック マネージャ関連イベントデバッグメッセージを表示します。 このキーワードは、Catalyst 3750-E スイッチでサポートされています。
<b>sync</b>	動作同期および VLAN (仮想 LAN) ライン ステート イベントデバッグメッセージを表示します。
<b>vlangs</b>	VLAN 作成および削除イベントデバッグメッセージを表示します。

**デフォルト**

デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード**

特権 EXEC

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg platform pm** コマンドは、**no debug platform pm** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform port-asic

ポート Application-Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け集積回路) ドライバのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-asic** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform port-asic {interrupt | periodic | read | stack | write}
```

```
no debug platform port-asic {interrupt | periodic | read | stack | write}
```

## シンタックスの説明

<b>interrupt</b>	ポート ASIC 中断関連機能デバッグ メッセージを表示します。
<b>periodic</b>	ポート ASIC 定期的関数呼び出しデバッグ メッセージを表示します。
<b>read</b>	ポート ASIC 読み取りデバッグ メッセージを表示します。
<b>stack</b>	スタック関連機能デバッグ メッセージを表示します。
	このキーワードは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。
<b>write</b>	ポート ASIC 書き込みデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform port-asic** コマンドは、**no debug platform port-asic** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform port-security

プラットフォーム依存型ポートセキュリティ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}**

**no debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}**

## シンタックスの説明

<b>add</b>	セキュアアドレス追加デバッグメッセージを表示します。
<b>aging</b>	セキュアアドレスエイジングデバッグメッセージを表示します。
<b>all</b>	ポートセキュリティデバッグメッセージをすべて表示します。
<b>delete</b>	セキュアアドレス削除デバッグメッセージを表示します。
<b>errors</b>	ポートセキュリティエラーデバッグメッセージを表示します。
<b>rpc</b>	Remote Procedure Call (RPC) デバッグメッセージを表示します。
<b>warnings</b>	警告デバッグメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform port-security** コマンドは、**no debug platform port-security** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



## debug platform qos-acl-tcam

QoS (Quality of Service) および Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) ハードウェア メモリ マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform qos-acl-tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}
```

```
no debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}
```

### シンタックスの説明

<b>all</b>	QoS and ACL TCAM (QATM) マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>ctcam</b>	Cisco TCAM (CTCAM) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	QATM エラー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>labels</b>	QATM ラベル関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>mask</b>	QATM マスク関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	QATM Remote Procedure Call (RPC) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>tcam</b>	QATM ハードウェア メモリ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug platform qos-acl-tcam** コマンドは、**no debug platform qos-acl-tcam** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform remote-commands

リモート コマンドのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform remote-commands** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform remote-commands**

**no debug platform remote-commands**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform remote-commands** コマンドは、**no debug platform remote-commands** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform resource-manager

リソース マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform resource-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform resource-manager** {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}

**no debug platform resource-manager** {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}

## シンタックスの説明

<b>all</b>	リソース マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>dm</b>	宛先マップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>erd</b>	等価コスト ルート記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>madmed</b>	MAC (メディア アクセス制御) アドレス記述子テーブル、およびマルチ拡張記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>sd</b>	ステーション記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>stats</b>	統計情報デバッグ メッセージを表示します。
<b>vld</b>	VLAN (仮想 LAN) リスト記述子デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform resource-manager** コマンドは、**no debug platform resource-manager** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform snmp

プラットフォーム依存型 SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform snmp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform snmp**

**no debug platform snmp**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform snmp** コマンドは、**no debug platform snmp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform span

プラットフォーム依存型 Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform span** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform span**

**no debug platform span**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform span** コマンドは、**no debug platform span** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform stack-manager

スタック マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform stack-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}**

**no debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}**



(注)

このコマンドは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべてのスタック マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	スタック マネージャ Remote Procedure Call (RPC) 使用状況デバッグ メッセージを表示します。
<b>sdp</b>	Stack Discovery Protocol (SDP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>sim</b>	スタック情報モジュール デバッグ メッセージを表示します。
<b>ssm</b>	スタック ステートマシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>trace</b>	スタック マネージャの入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform stack-manager** コマンドは、**no debug platform stack-manager** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

## debug platform supervisor-asic

スーパーバイザ Application-Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け集積回路) のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform supervisor-asic** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}
```

```
no debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}
```

### シンタックスの説明

<b>all</b>	スーパーバイザ ASIC イベント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	スーパーバイザ ASIC エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>receive</b>	スーパーバイザ ASIC 受信デバッグ メッセージを表示します。
<b>send</b>	スーパーバイザ ASIC 送信デバッグ メッセージを表示します。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebbug platform supervisor-asic** コマンドは、**no debug platform supervisor-asic** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform sw-bridge

ソフトウェアブリッジング機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform sw-bridge** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}
```

```
no debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}
```

## シンタックスの説明

<b>broadcast</b>	ブロードキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>control</b>	プロトコル パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>multicast</b>	マルチキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	送受信データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>unicast</b>	ユニキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform sw-bridge** コマンドは、**no debug platform sw-bridge** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



## debug platform tcam

ハードウェア メモリ アクセスおよびルックアップのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform tcam {log | read | search | write}
debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}
debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | ipv6 {acl {input | output} | local | qos | secondary}
| local | qos | secondary}
debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}
debug platform tcam search
debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}
no debug platform tcam {log | read | search | write}
no debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}
no debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | ipv6 {acl {input | output} | local | qos |
secondary} | local | qos | secondary}
no debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}
no debug platform tcam search
no debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}
```

### シンタックスの説明

<b>log l2 {acl {input   output}   local   qos}</b>	レイヤ 2 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl {input   output}</b> — 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>local</b> — ローカル転送ルックアップデバッグメッセージを表示します。</li> <li>• <b>qos</b> — 分類および QoS ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>l3 {acl {input   output}   ipv6 {acl {input   output}   local   qos   secondary}   local   qos   secondary}</b>	レイヤ 3 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl {input   output}</b> — 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipv6 {acl {input   output}   local   qos   secondary}</b> — IPv6 ベース ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。オプションには、入力または出力 ACL ルックアップ、ローカルフォワーディング ルックアップ、および QoS ルックアップ、またはセカンダリフォワーディングルックアップデバッグメッセージの表示が含まれます。</li> <li>• <b>local</b> — ローカル転送ルックアップデバッグメッセージを表示します。</li> <li>• <b>qos</b> — 分類および QoS ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>secondary</b> — セカンダリ フォワーディング ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>

<b>read {reg   ssram   tcam}</b>	ハードウェア メモリ読み取りデバッグ メッセージを表示します。 キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>reg</b> — ハードウェア メモリ レジスタ読み取りデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ssram</b> — Synchronous Static RAM (SSRAM) 読み取りデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>tcam</b> — ハードウェア メモリ読み取りデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>search</b>	スーパーバイザ起動型ハードウェア メモリ検索結果デバッグ メッセージを表示します。
<b>write {forw-ram   reg   tcam}</b>	ハードウェア メモリ書き込みデバッグ メッセージを表示します。 キーワードの意味は次のとおりです。 <p><b>forw-ram</b> — 転送 RAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p><b>reg</b> — ハードウェア メモリ レジスタ書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p><b>tcam</b> — ハードウェア メモリ書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p>

**デフォルト**

デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード**

特権 EXEC

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebbug platform tcam** コマンドは、**no debug platform tcam** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform uddl

プラットフォーム依存型 UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform uddl** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform uddl [all | error | rpc {events | messages}]
```

```
no debug platform uddl [all | error | rpc {events | messages}]
```

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) UDLD デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>error</b>	(任意) エラー条件デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc {events   messages}</b>	(任意) UDLD Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>events</b> — UDLD RPC イベントを表示します。</li> <li><b>messages</b> — UDLD RPC メッセージを表示します。</li> </ul>

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform uddl** コマンドは、**no debug platform uddl** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform vlan

VLAN (仮想 LAN) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

```
no debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

## シンタックスの説明

<b>errors</b>	VLAN エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>mvid</b>	マッピングされた VLAN ID 割り当ておよびフリー デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform vlan** コマンドは、**no debug platform vlan** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug pm

Port Manager (PM; ポート マネージャ) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pm** 特権 EXEC コマンドを使用します。PM は、すべての論理および物理インターフェイスを制御するステート マシンです。VLAN (仮想 LAN) や UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) などを含むすべての機能は、PM と連携して、スイッチに機能を提供します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy | registry | sm | span
          | split | vlan | vp}
```

```
no debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy | registry | sm |
            span | split | vlan | vp}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	PM デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>assert</b>	アサート デバッグ メッセージを表示します。
<b>card</b>	ラインカード関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchnl</b>	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>hatable</b>	ホスト アクセス テーブル イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>messages</b>	PM デバッグ メッセージを表示します。
<b>port</b>	ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	冗長 デバッグ メッセージを表示します。
<b>registry</b>	PM レジストリ呼び出し デバッグ メッセージを表示します。
<b>sm</b>	ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>span</b>	スパニング ツリー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>split</b>	スプリット プロセッサ デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan</b>	VLAN 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vp</b>	仮想ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**scp** および **pvlan** キーワードはコマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug pm** コマンドは、**no debug pm** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

## debug port-security

ポート セキュリティ サブシステムの割り当ておよびステータスのデバッグをイネーブルにするには、**debug port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug port-security**

**no debug port-security**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug port-security** コマンドは、**no debug port-security** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<a href="#">show port-security</a>	インターフェイスまたはスイッチに定義されたポート セキュリティ設定を表示します。

# debug qos-manager

QoS (Quality of Service) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug qos-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug qos-manager {all | event | verbose}
```

```
no debug qos-manager {all | event | verbose}
```

シンタックスの説明	説明
<b>all</b>	QoS マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>event</b>	QoS マネージャ 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>verbose</b>	QoS マネージャ 詳細デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug qos-manager** コマンドは、**no debug qos-manager** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug spanning-tree

スパニング ツリーのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | csuf/csrt | etherchannel | events |
exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | csuf/csrt | etherchannel | events
| exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization | uplinkfast}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	スパニング ツリーのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>backbonefast</b>	BackboneFast イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>bpdu</b>	スパニング ツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) デバッグ メッセージを表示します。
<b>bpdu-opt</b>	最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>config</b>	スパニング ツリー設定変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>csuf/csrt</b>	クロススタック UplinkFast およびクロススタック高速遷移アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。  このキーワードは、Catalyst 3750-E スイッチのみでサポートされています。
<b>etherchannel</b>	EtherChannel サポート デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	スパニング ツリー トポロジ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>exceptions</b>	スパニング ツリー例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>general</b>	一般的なスパニング ツリー アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>mstp</b>	Multiple Spanning-Tree Protocol (MSTP) イベントをデバッグします。
<b>pvst+</b>	Per-VLAN Spanning-Tree Plus (PVST+) イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>root</b>	スパニング ツリー ルート イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	スパニング ツリー SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>synchronization</b>	スパニング ツリー同期イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>switch</b>	スイッチ シム コマンド デバッグ メッセージを表示します。このシムは、一般的な Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) コードと、各スイッチ プラットフォーム固有コードとの間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。



**使用上のガイドライン**

`undebg spanning-tree` コマンドは、`no debug spanning-tree` コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<code>show spanning-tree</code>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree backbonefast

スパニング ツリー BackboneFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree backbonefast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree backbonefast** [detail | exceptions]

**no debug spanning-tree backbonefast** [detail | exceptions]

シンタックスの説明	detail	(任意) BackboneFast デバッグ メッセージの詳細を表示します。
	exceptions	(任意) スパニング ツリー BackboneFast 例外のデバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug spanning-tree backbonefast** コマンドは、**no debug spanning-tree backbonefast** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree bpdu

送受信されたスパニング ツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]**

**no debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]**

シンタックスの説明	
<b>receive</b>	(任意) 受信された BPDU デバッグ メッセージについて、最適化されないパスを表示します。
<b>transmit</b>	(任意) 送信された BPDU デバッグ メッセージについて、最適化されないパスを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug spanning-tree bpdu** コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree bpdu-opt

最適化されたスパニング ツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) 処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu-opt** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree bpdu-opt [detail | packet]**

**no debug spanning-tree bpdu-opt [detail | packet]**

シンタックスの説明	detail	(任意) 最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージの詳細を表示します。
	packet	(任意) パケットレベルの最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug spanning-tree bpdu-opt** コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu-opt** コマンドと同じです。Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

## debug spanning-tree mstp

Multiple Spanning-Tree Protocol (MSTP) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree mstp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init | migration | pm |
proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

```
no debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init | migration | pm
| proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

### シンタックスの説明

<b>all</b>	デバッグ メッセージをすべてイネーブルにします。
<b>boundary</b>	次に示す境界上でのフラグ変更をデバッグします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Multiple Spanning-Tree (MST) リージョンと、Rapid Spanning-Tree Protocol (RSTP) が稼働する単一のスパニング ツリー リージョンとの境界</li> <li>MST リージョンと、802.1D が稼働する単一のスパニング ツリー リージョンとの境界</li> <li>MST リージョンと、設定が異なる別の MST リージョンとの境界</li> </ul>
<b>bpdu-rx</b>	受信した MST Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) をデバッグします。
<b>bpdu-tx</b>	送信された MST BPDU をデバッグします。
<b>errors</b>	MSTP エラーをデバッグします。
<b>flush</b>	ポート フラッシュ メカニズムをデバッグします。
<b>init</b>	MSTP データ構造の初期化をデバッグします。
<b>migration</b>	プロトコル移行ステート マシンをデバッグします。
<b>pm</b>	MSTP ポート マネージャ イベントをデバッグします。
<b>proposals</b>	指定スイッチとルート スイッチ間のハンドシェイク メッセージをデバッグします。
<b>region</b>	Switch Processor (SP; スイッチ プロセッサ) と Route Processor (RP; ルート プロセッサ) 間のリージョン同期をデバッグします。
<b>roles</b>	MSTP のロールをデバッグします。
<b>sanity_check</b>	受信した BPDU の正常性確認メッセージをデバッグします。
<b>sync</b>	ポート同期イベントをデバッグします。
<b>tc</b>	トポロジ変更通知イベントをデバッグします。
<b>timers</b>	開始、停止、および期限切れイベントの MSTP タイマーをデバッグします。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg spanning-tree mstp** コマンドは、**no debug spanning-tree mstp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

## debug spanning-tree switch

Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のソフトウェア インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree switch** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

### シンタックスの説明

<b>all</b>	スパニング ツリー スイッチのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	スパニング ツリー ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>flush</b>	シム フラッシュ動作に関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>general</b>	一般的なイベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>helper</b>	スパニング ツリー ヘルパー タスク デバッグ メッセージを表示します。ヘルパー タスクは大容量スパニング ツリー更新を処理します。
<b>pm</b>	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>rx</b>	受信した Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) 処理のデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>decode</b> — デコードされた受信パケットを表示します。</li> <li>• <b>errors</b> — 受信エラー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>interrupt</b> — Interrupt Service Request (ISR) デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>process</b> — プロセス受信 BPDU デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>state</b>	スパニング ツリー ポート ステート変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>tx [decode]</b>	送信された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>decode</b> — (任意) デコードされた送信パケットを表示します。</li> </ul>
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast パケット送信デバッグ メッセージを表示します。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg spanning-tree switch** コマンドは、**no debug spanning-tree switch** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。



# debug spanning-tree uplinkfast

スパニング ツリー UplinkFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree uplinkfast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]**

**no debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]**

シンタックスの説明	<b>exceptions</b> (任意) スパニング ツリー UplinkFast 例外のデバッグ メッセージを表示します。
-----------	--

デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **undebug spanning-tree uplinkfast** コマンドは、**no debug spanning-tree uplinkfast** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug sw-vlan

VLAN (仮想 LAN) マネージャのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management | mapping |
notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

```
no debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management | mapping |
notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

## シンタックスの説明

<b>badpmcookies</b>	不良ポート マネージャ クッキーの VLAN マネージャ インシデントに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cfg-vlan {bootup   cli}</b>	config-vlan デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>bootup</b> — スイッチを起動したときのメッセージを表示します。</li> <li><b>cli</b> — CLI (コマンドライン インターフェイス) が config-vlan モードである場合のメッセージを表示します。</li> </ul>
<b>events</b>	VLAN マネージャ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>ifs</b>	<a href="#">debug sw-vlan ifs</a> コマンドを参照してください。
<b>management</b>	内部 VLAN の VLAN マネージャ管理のデバッグ メッセージを表示します。
<b>mapping</b>	VLAN マッピングのデバッグ メッセージを表示します。
<b>notification</b>	<a href="#">debug sw-vlan notification</a> コマンドを参照してください。
<b>packets</b>	パケット処理およびカプセル化プロセスのデバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	VTP VLAN 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	VLAN マネージャ レジストリのデバッグ メッセージを表示します。
<b>vtp</b>	<a href="#">debug sw-vlan vtp</a> コマンドを参照してください。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan** コマンドは、**no debug sw-vlan** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<code>show vlan</code>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。
<code>show vtp</code>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

## debug sw-vlan ifs

VLAN (仮想 LAN) マネージャ IOS File System (IFS) エラー テストのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan ifs** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

```
no debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

### シンタックスの説明

<b>open {read   write}</b>	VLAN マネージャ IFS ファイル オープン動作のデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>read</b> — VLAN マネージャ IFS ファイル読み取り動作のデバッグ メッセージを表示します。</li> <li><b>write</b> — VLAN マネージャ IFS ファイル書き込み動作のデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>read {1   2   3   4}</b>	指定されたエラー リスト (1、2、3、または 4) に関するファイル読み取り動作のデバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	ファイル書き込み動作のデバッグ メッセージを表示します。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan ifs** コマンドは、**no debug sw-vlan ifs** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

ファイルの読み取り処理に処理 **1** を選択すると、ヘッダー検証ワードおよびファイルバージョン番号が格納されたファイル ヘッダーが読み込まれます。処理 **2** を選択すると、ドメインおよび VLAN 情報の大部分が格納されたファイル本体が読み込まれます。処理 **3** を選択すると、Type Length Version (TLV) 記述子構造が読み込まれます。処理 **4** を選択すると、TLV データが読み込まれます。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vlan</b>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

# debug sw-vlan notification

ISL (スイッチ間リンク) VLAN (仮想 LAN) ID のアクティブ化および非アクティブ化のデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan notification** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan notification {acbfdchange | allowedvlanfcgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningfcgchange | statechange}
```

```
no debug sw-vlan notification {acbfdchange | allowedvlanfcgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningfcgchange | statechange}
```

## シンタックスの説明

<b>acbfdchange</b>	集約アクセス インターフェイス スパニング ツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>allowedvlanfcgchange</b>	許可 VLAN の設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>fwdchange</b>	スパニング ツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>linkchange</b>	インターフェイス リンクステート変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>modechange</b>	インターフェイス モード変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruningfcgchange</b>	プルーニングの設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>statechange</b>	インターフェイス ステート変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan notification** コマンドは、**no debug sw-vlan notification** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vlan</b>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

## debug sw-vlan vtp

VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランッキング プロトコル) コードのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan vtp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [packets | xmit] | redundancy | xmit}
```

```
no debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning | redundancy | xmit}
```

### シンタックスの説明

<b>events</b>	汎用の論理フローのデバッグ メッセージ、および VTP コード内の VTP_LOG_RUNTIME マクロによって生成された詳細な VTP メッセージを表示します。
<b>packets</b>	IOS VTP プラットフォーム依存層から VTP コードに渡されたすべての着信 VTP パケット (プルーニング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruning [packets   xmit]</b>	VTP コードのプルーニング セグメントによって生成されるデバッグ メッセージを表示にします。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>packets</b> — (任意) IOS VTP プラットフォーム依存層から VTP コードに渡されたすべての着信 VTP プルーニング パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>xmit</b> — (任意) VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信 VTP パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>redundancy</b>	VTP 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>xmit</b>	VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信 VTP パケット (プルーニング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebg sw-vlan vtp** コマンドは、**no debug sw-vlan vtp** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**pruning** キーワードのあとにパラメータを指定しない場合は、VTP プルーニング デバッグ メッセージが表示されます。これらのメッセージは、VTP プルーニング コード内の VTP\_PRUNING\_LOG\_NOTICE、VTP\_PRUNING\_LOG\_INFO、VTP\_PRUNING\_LOG\_DEBUG、VTP\_PRUNING\_LOG\_ALERT、および VTP\_PRUNING\_LOG\_WARNING マクロによって生成されます。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vtp</b>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

## debug udld

UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug udld** 特権 EXEC コマンドを使用します。UDLD デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug udld {events | packets | registries}
```

```
no debug udld {events | packets | registries}
```

#### シンタックスの説明

<b>events</b>	UDLD プロセス イベントが発生したときに、このイベントに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	UDLD プロセスがパケット キューからパケットを受信し、UDLD プロトコル コードの要求に応答してそれらを送信するときに、このプロセスに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	UDLD プロセスが UDLD プロセス依存モジュールおよびその他のフィーチャ モジュールからのレジストリ コールを処理するときに、このプロセスに関するデバッグ メッセージを表示します。

#### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

#### コマンドモード

特権 EXEC

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebbug udld** コマンドは、**no debug udld** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**debug udld events** を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 一般的な UDLD プログラム論理フロー
- ステート マシンのステート変更
- errdisable ステート設定および消去のプログラム アクション
- 近接キャッシュの追加および削除
- コンフィギュレーション コマンドの処理
- リンクアップおよびリンクダウン識別処理

**debug udld packets** を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 着信パケット受信時の一般的なパケット処理プログラム フロー
- 受信したパケットをパケット受信コードで調べるときの、各パケットの内容の識別情報 (Type Length Version [TLV] など)
- パケット送信の試行内容およびその成果

**debug udld registries** を入力すると、次に示すカテゴリのデバッグ メッセージが表示されます。

- サブブロックの作成
- ファイバポート ステータスの変更
- ポート マネージャ ソフトウェアからのステート変更識別情報
- MAC (メディア アクセス制御) アドレス レジストリ コール

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show udld</b>	すべてのポートまたは指定されたポートの UDLD 管理ステータスおよび動作ステータスを表示します。



## debug vqpc

VLAN Query Protocol (VQP) クライアントのデバッグをイネーブルにするには、**debug vqpc** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug vqpc [all | cli | events | learn | packet]
```

```
no debug vqpc [all | cli | events | learn | packet]
```

### シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) VQP クライアント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>cli</b>	(任意) VQP クライアント CLI (コマンドライン インターフェイス) デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	(任意) VQP クライアント イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>learn</b>	(任意) VQP クライアント アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) VQP クライアント パケット情報 デバッグ メッセージを表示します。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(35)SE2	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug vqpc** コマンドは、**no debug vqpc** コマンドと同じです。

Catalyst 3750-E スイッチでは、デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

■ debug vqpc